

平成28年度 たましん御岳美術館 後期展示

2016年10月4日[火]
—2017年2月19日[日]

開館時間 午前10時～午後4時30分
(11月～3月は午後4時まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
*年末年始は12月19日～2017年1月6日まで休館
入館料 一般 500円 [400円]
高・大生 400円 [300円] 小・中生 300円 [200円]
*[] 内は20名様以上の団体

何を想い、その先に何をみようとしたか
海
もわたった
作家たち

たましん御岳美術館

〒198-0173 東京都青梅市御岳本町 1-1
TEL: 0428-78-8814 FAX: 0428-78-9266 <http://www.tamashin.or.jp>

藤島武二「屋島より女木島展望」1938年

瀬 戸内海のおだやかな内海を望む「屋島より女木島展望」は、1938年に描かれた藤島武二(1867-1943)による晩年の作品です。水彩画のような澄んだ透明感が画面を占めており、整然かつ明快に単純化されて描かれています。“見事な日本への回帰”とも評される平面的効果をねらい描かれた作品です。

藤島は1905年から約4年間フランス、イタリアへ国費留学しましたが、彼だけでなく多くの画学生、洋画家たちは明治の終わりから大正、昭和初期にかけて渡欧しました。作家に私淑する者、国立の美術学校等へ国費や私費留学する者、ルーヴル美術館やプラド美術館等の世界有数の美術館へ足繁く通う者、同時代の作家と交友を持つ者など、それぞれに、西欧の伝統によって培われた「油絵」を感得し、日本という歴史・風土の中で「日本人としての油絵」を見出そうと試行錯誤しました。

浅井忠が渡欧前に描いた作品とパリで描いた風俗作品、鹿子木孟郎や熊岡美彦、岡鹿之助による渡仏中の風景作品。伊原宇三郎が渡欧中に描いたモンマルトルの風景やピカソの影響が色濃い裸婦像や帰国後の作品。本展は、作家たちが渡欧して体感・会得した先に何を描こうとしたのかを見つめます。

ギャラリートーク

10月15日(土)・11月19日(土)の各日2回

① 11:00 ~ / ② 13:00 ~

藤島武二の作品を中心に30分程度、ご案内いたします。



1. 浅井忠「押除馬車(パリ風俗)」1901年 / 2. 鹿子木孟郎「公園にて」1901年頃 / 3. 熊岡美彦「プレハ島漁村」1929年



たましん御岳美術館とは？

御岳美術館は、1993年11月、たましん歴史・美術館(JR国立駅南口前)の分館として開館しました。浅井忠、岸田劉生、藤島武二、荻原守衛(碌山)、中村彝など近代日本美術を代表する作家や、多摩地域の作家による作品のほか、国際的な美術教育者としても知られる倉田三郎の作品などを展示しています。



- 常設展示 — 日本近代彫刻の魁 新宿中村屋の作家たち —
出品作家：荻原守衛、中村彝、中原悌二郎、高村光太郎など
- 倉田三郎記念室 旅の素描 — 旧ユーゴスラヴィア —

「スケッチの日」第3回

11月3日(木・祝) / 11月4日(金) ※雨天決行

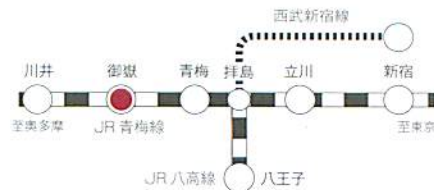
受付時間 10:00 ~ 15:00

御岳渓谷の風景を楽しみながらスケッチしませんか？
画材は無料で貸し出します。初めての方もお気軽にご参加ください。



《交通案内》

JR 青梅線「御嶽駅」より
《御岳渓谷遊歩道》を上流へ約1.5km
※専用駐車場、大型バス専用駐車場あり
(ご利用の際はあらかじめご連絡ください)
JR 中央線「新宿駅」より「御嶽駅」まで約90分



たましん歴史・美術館

〒186-8686 東京都国立市中1-9-52 多摩信用金庫国立支店 6F (JR 国立駅南口前)
TEL: 042-574-1360 FAX: 042-577-5070 <http://www.tamashin.or.jp>

開催中

東洋古陶磁展【併設】たましんコレクション絵画展—描かれた陶磁—
~ 12月4日(日)

予告

旅する展覧会
2017年1月7日(土) ~ 3月5日(日)